

地震調査研究における今後の海域観測の方針について（仮題）（骨子案）

1. はじめに

海域の観測については、平成21年策定（平成24年改訂）の「新総合基本施策」を踏まえて平成26年に策定された「総合調査観測計画」において、海域のリアルタイム地震・津波観測網の整備と、海域における地殻変動観測網の整備を、横断的に取り組むべき重要事項として位置付けた。「総合調査観測計画」では、ケーブル式海底地震・津波計による地震・津波観測を「基盤的調査観測」に、海底地殻変動観測は「準基盤的調査観測」に位置付けている。

2. 海域観測網についての当面の課題

(1) 海溝型地震を対象とした地震発生予測の高精度化に資する観測網

（海底地殻変動に関する最新の観測研究の成果を踏まえた海底地殻変動観測網の充実の重要性と課題）

(2) 津波即時予測技術の開発及び地震動即時予測の高度化に資する観測網

（ケーブル式地震・津波観測網の整備状況を踏まえた海域の状況に応じた観測網の充実の重要性と課題）

3. 今後の海域観測網のあり方

(1) 海溝型地震を対象とした地震発生予測の高精度化に資する観測網

（今後の海底地殻変動観測網に求められる基本的な仕様等について GNSS／音響観測を中心に整理）

(2) 津波即時予測技術の開発及び地震動即時予測の高度化に資する観測網

（今後のケーブル式海底地震・津波観測網の整備にあたっての基本的な仕様等について整理）

4. 海域観測網整備海域と観測項目の優先順位

(1) 南海トラフ

(2) 相模トラフ

(3) 日本海溝

(4) 千島海溝

(5) 日本海

(6) 南西諸島海溝

(7) 伊豆・小笠原海溝

5. 観測網整備に当たって必要な技術開発

- (1) GNSS/音響海底地殻変動観測
 - ①長期的かつ安定的な観測の実現
 - ②観測の更なる効率化
 - ③準リアルタイム観測
- (2) ケーブル式海底地震・津波計
 - ①拡張性と機器の更新可能性
 - ②整備・運用経費の低減

6. その他検討すべき事項

- (1) 陸域観測網との関係
- (2) 観測データの効果的な活用方策を踏まえた整備

7. おわりに